

<令和3年度 消防大学校記念祭記念講演会>より（記念講演①）

「東日本大震災の教訓を踏まえての応援・ 受援体制のあり方について 3・11東日本大震災から10年が経過して」

新潟市消防局長 小林 佐登司

【事務局】 それでは、本日1回目のご講演をいただきます講師の小林佐登司様のご経歴を紹介させていただきます。

小林さんは、昭和56年4月に新潟市消防局に入局され、平成22年4月に新潟市危機管理防災課へご出向の後、平成30年4月に新潟市消防局次長に、そして昨年4月に新潟市消防局長にご就任されました。

本日は、「東日本大震災の教訓を踏まえての応援・受援体制のあり方について 3・11東日本大震災から10年が経過して」と題してご講演をいただきます。

それでは小林様、よろしくお願いたします。

【小林講師】 ただいまご紹介をいただきました新潟市消防局の小林でございます。少し新型コロナについてお話をさせていただいてから、本題に徐々に入ってまいりたいと思います。

新型コロナ感染防止対策については、各消防本部とも組織を挙げて強化をされていることと存じますが、消防職員のワクチン接種については、医療従事者などということで救急隊などから順次始まり、既に全職員が接種を終えた消防本部もございます。当新潟市消防局におきましては、救急隊員など現場業務に関わる職員のワクチン接種を優先し、その後、専門家の意見も伺いながら、集団免疫の獲得を目的に、全職員の接種を決断いたしました。先週、既に2回目の接種については全職員が終えているところであります。

冒頭で何が申し上げたいかといいますと、本日いただいた大変大きな演題であります東日本大震災の教訓を踏まえての応援・受援体制の在り方について、重要な一つのこととして、各級指揮者がそれぞれの立場において、自らの権限と責任において決断を迫られることがあるということでもあります。実は、答えがない、本当に難しい判断を求められることが大災害には付き物であり、東日本大震災の際も実際にあったことと思います。

ワクチン接種についても、危機管理上、消防業務を維持するためには職員が接種を受けることが組織運営上有利ではありますが、一方、仮に消防の幹部までが接種を優先して受け

るという必要性について異論が出た場合には、もろ刃の剣でもあるわけであります。各消防本部では、組織として考え方を整理しての決断が必要であり、恐らく6月中に全職員の接種を終えた組織については、消防長はじめ、幹部の皆さんの決断があったことと思います。



次に、何で講演を引き受けたかということですが、当時、平成22年度の1年間、市役所に出向中の身でありました私は、3月11日の地震発生から年度末の3月31日まで、当時の20大都市災害時相互応援に関する協定により、出向先の新潟市の危機管理部門の職員の立場で、先遣隊長として仙台市の支援に携わりました。年度が替わった4月1日からは、緊急消防援助隊新潟県隊の隊長、指揮支援隊長として、石巻市に2回出動しました。一般行政職員の視点と消防職員の視点で大震災を経験し、それぞれの立場でそれぞれの活動を見てきたので、10年が経過したということでお話をしてみようかということ、お引き受けしたところであります。

しかし、最大の理由は、現在、消防大学校で、調査研究部長併任で教務部長を務められております齋藤部長の存在があります。齋藤部長は、震災当時には仙台市の防災課長を務められておりました。何かとご縁があって、震災後も全国の消防の会議でお目にかかることが非常に多かったところであります。人と人との縁で、今回お受けしたところであります。私は当時から齋藤部長を信頼しておりましたが、齋藤部長が私のことをどう思われていたのかは伺っておりません。

もう一つ、人と人の絆で、この3月まで石巻地区広域行政事務組合消防本部の消防長をされておりました水沼前消防長から大事なことを教えていただいたような気がします。簡単に申し上げますと、感謝の気持ちを忘れないことです。水沼前消防長は、今年3月19日の退職前の貴重な時間を割いて、新潟市消防局、新潟県隊への感謝をお伝えに、新潟市消

防局までおいでになりました。アポなしでありました。実際、私とか幹部がいない可能性もあったんですけれども、偶然そういうときというのは、しっかりと神様はいるのかなということでありまして、お会いし、お話をすることができました。

支援から10年が経過したのに、当時のことを非常に鮮明に水沼前消防長がお話しになるのには、私もびっくりいたしました。私も改めて、強く思いました。人と人の絆、災害時には人間関係、信頼関係の構築は、応援側、受援側にとって、とても重要で大切なことでもあります。このことは、現在消防大学校に入校されている皆さんにも言えることだと思います。消防大学校の同期として、より良い信頼関係を築いて、今後の消防人生において大きな財産としていただきたいと思います。偶然同室となったことが、卒業後も部屋会やら同期会、日頃の情報交換、本当に一生の友人として付き合いこととなる方もいらっしゃると思います。せっかく消防大学校入校という機会を得たわけですので、ぜひ一人でも多くの信頼を寄せる友人を作っていただきたいと思います。

災害時にも、いかに早く応援側・受援側双方ともに信頼関係を構築できるかが、災害対応を円滑に進めるためには大きな意味を持つと思います。まず挨拶から、応援時、「よろしくをお願いします。」。同時に右手を出して、握手を求めてはよいのではないのでしょうか。旧知の仲であれば、「久しぶりだな。」「よろしく。」ということで、スポーツ選手のように軽く抱擁してもよいのではないのでしょうか。災害時、少しは落ち着くことができるのではないかと思います。

名刺交換も非常に重要です。まず、名前を覚える。相手から覚えてもらう。指揮隊長クラスは、あらかじめ派遣に備え、名刺をたくさん準備しておいてください。100枚なんて、あっという間になくなる場合もあります。私は、東日本大震災のときは、残り10枚のところまで仙台市にお願いをしまして、カラーコピーをさせていただいて、何とか急場をしのいだ記憶がございます。

自衛隊、警察との調整においても信頼関係は重要です。ぜひこちらから右手を出して、「よろしくをお願いします。」。相手方は、決して悪い気はしないと思います。お互いに構えています。どうぞ右手を出しましょう。声をかけましょう。それぞれ、ルールややり方が異なります。これは組織が違うので、しょうがありません。相手を知って理解するしかありません。現場活動に近い立場での調整は、目の前に現場がありますので、お互いで理解して、歩み寄るところは歩み寄る。中には隊長クラスの意見が食い違ったまま調整に時間を要したなんていうこともあったと聞いております。

指揮支援隊長や都道府県隊長クラスは、長期の派遣が望まれるのではないのでしょうか。十分に信頼関係を築きかけたところで、「はい、所属消防に帰ります。」では、実災害では本当にもったいない限りであります。応援側の都道府県隊長は、ようやく被災地の事情や

受援消防本部の皆さんと顔の見える関係になったのに、本当にもったいないことになってしまうのではないのでしょうか。実際に大規模災害に派遣されて、同じように感じられた指揮隊長クラスの方は大勢いらっしゃると思います。東日本大震災では札幌市消防局の指揮支援部隊の指揮隊長クラスの方が、長期派遣で円滑に調整をしていただいたと記憶しております。

それでは、私は話が長くなる傾向があるので、初めに、私が東日本大震災の活動から、また、その後の各地での災害から感じた応援・受援の課題について、まとめの部分から述べさせていただきます。

応援の課題ということであります（図1）。

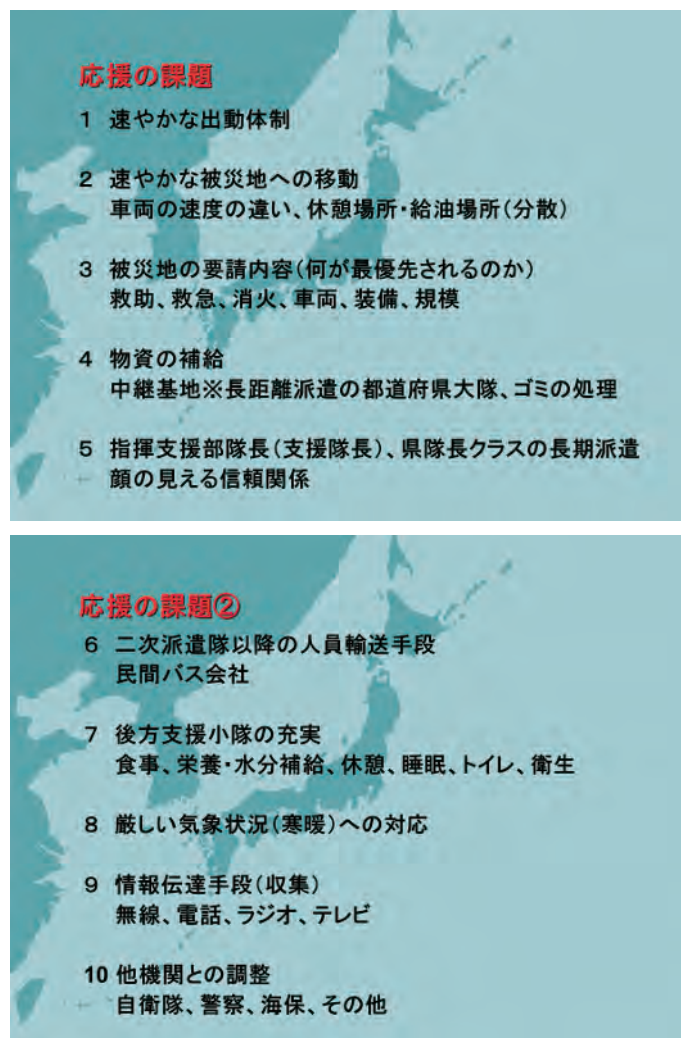


図1 応援の課題

1の速やかな出動体制。各消防本部が努力、工夫するしかありません。新潟市消防局では指揮隊長クラスが当直体制には入っていないので、消防署の課長を具体的に日にち毎に指定して、速やかに参集するシステムを取っております。当然その日はお酒が飲めないということになります。何とか当局で指揮隊長クラスを交代制の当直に組み入れたいのですが、現実の話、今のところは難しいと考えております。

2の速やかな被災地への移動。これは車両の速度に違いがあります。消防車両の場合、大きいから小さいまで、走行性能がいいのから悪いのまで、いろいろあります。進出拠点に都道府県大隊指揮隊、消火、救助、救急の各中隊別に、時間がずれても早く集結するような方法も考えてよいのではないかと思います。

現地に入って一緒に活動するのであればいいんですが、現実、災害場所が多数あると、県隊といえども活動場所が分かれたような形になってしまいます。今は無線とか、通信設備が整っていますので離れたりしても、そういったことで連絡がつくんじゃないか。また、現地の情報を、早く情報収集をしたほうが、以後の活動に繋がっていくのではないかと考えます。

また、給油場所や休憩場所も、都道府県大隊が同じ場所というのは非常に不効率だと思います。特に給油場所などは分散するように、ルート設定の段階で計画することも有効ではないでしょうか。消防車両が並んで給油しているとか、隊員が並んでご飯を食べているとか、時間的に非常にもったいないと感じております。

次に、3の被災地の要請内容についてです。被災地が何を優先してほしいのか、何を求めているのか、しっかり把握することが重要です。状況によっては、資機材を追加調整する必要があっても、資機材が整うまで活動ができないといったこともあり、活動内容に影響することもあります。東日本大震災は津波が残した水や瓦礫への対応のため、ウエットスーツを持っている部隊はいいんですけども、持っていない部隊については胴つきの長靴を用意するとか、水への対応が非常に大変でした。こういった部分も、消防本部に残った支援職員の方は、いかにして早く調達して現地に送るとか、様々な方法で現場の要請に伝えていく必要があると思います。

また、指揮隊長クラスは現地でその辺をしっかり把握して、要請する。遠慮される指揮隊長クラスの方もいらっしゃると思いますが、災害対応は遠慮なく必要な物を消防本部に求めることが大事なことだと思います。

次に、4の物資の補給についてです。派遣が長期になれば、追加で調達の必要があるものが多く出てまいります。追加で自分の本部から送ってもらうのもいいですが、搬送に時間がかかるなど、非常に労力が大きくなります。東日本大震災の際には、兵庫県隊の神戸市消防局が新潟市消防局の一室を借りて、中継基地として、新潟市内で食料等の追加物資

を確保して、新潟市から被災地で活動する県隊に送ったということがあります。これについては、時間のロスも少なく、神戸市から東日本よりは、新潟市から東日本へ送ったほうが有利という、神戸市の非常にすばらしい選択であったと思います。

また、兵庫県隊のごみですね。被災地に置いてこられないということで、神戸市消防局から依頼を受けまして、私が担当したんですけれども、市役所の環境部に、何とか焼いてくれと、何とか処分してくれということで、処分をいたしました。長距離派遣では有効な手段であったと考えます。

5の長期間の派遣については、隊長クラスの派遣は本当に長期が有効であると私は常々考えていますし、消防局でも主張をしております。

6の二次派遣以降の人員輸送手段についてです。これは東日本大震災でも、九州とか中国地方の都道府県隊の人員搬送については、本当に長距離になりますので、民間のバス会社のバスを借りまして、消防車とかも現地に置きっ放しで、人員をどんどん入れ替えたということでもあります。運転の疲労も影響してきます。現在は、全国的に都道府県によるバス輸送の制度化が進んだと感じております。もしお帰りにになりましたら、自分の都道府県隊はどういう扱いになっているのか、都道府県の担当課に確認されることもいいことかと思えます。

7の後方支援隊の充実については、これはちょっと長く話しますので、飛ばして後でお話をさせていただきます。

8の厳しい気象状況への対応についてです。東日本大震災においては、3月といえ、厳しい寒さや積雪の洗礼を受けた都道府県隊がありました。真冬の北国、真夏の南国など、慣れない土地での活動は具体的な対策が必要になってくると思います。部隊の活動能力を大いに低下させるのが気象状況かと思えます。自然は本当に厳しいです。東日本大震災において、防寒具、寝具、タイヤチェーンなどの確保でご苦労された都道府県隊も多数あったと聞いております。

今年度、北海道・東北ブロックの緊急消防援助隊の訓練が11月に北海道で予定されております。寒さ対策として、非常に私は興味深い訓練であると考えています。雪が降ってもいいんじゃないかなと思っております。厳しい寒さの中で、参加隊員の健闘を心から祈っているところなんですけれども、こういった訓練の内容についても、今後の活動について大いに参考になるものと思いますので、皆さんももし機会があれば、北海道・東北ブロックの訓練を注視していただければと思います。

9の情報伝達手段についてです。緊急地震速報などの情報収集が重要です。特に東日本大震災のときは、緊急地震速報の後に今度は津波が来るかどうかということで、これは二次災害にも関係してきます。組織としても個人としても、緊急かつ重要な情報について聞

き逃しがないよう、全員が無線とかラジオを個々に持つぐらいの気持ちで対応しなければ駄目なのかなと考えております。

10の他機関との調整です。自衛隊、警察などとの調整ですが、信頼関係と相手方の組織ルールを理解することが重要です。自衛隊は、現場ではなかなか調整ができません。まず、こちらから「よろしくお願いします。」と右手を出して、握手から始めてはどうでしょうか。どのクラスとお話をすればお互いの調整ができるのか、その辺りもしっかり確認をして、調整をしていただきたいと思います。

先ほど飛ばしました7に戻りまして、後方支援小隊の充実についてです。消防は我慢強いのはいいんですが、まず個人装備として、栄養補給とか水分補給ができるように準備をする必要があると思います。現場での過労であったり、疲労の蓄積で体調を崩された方も多かったようで、実際、派遣途中でやむを得ずに戻るということもあったと聞いております。栄養補給や水分補給を意識して活動してください。派遣期間の長さに応じて、確実に体力を、肉体を激しく消耗していくこととなります。痩せ細ってでも我慢するのが消防であります。ただ、そこを何とか今後、少しでも改善するように、皆さんから考えていただきたいと思います。

資料に戻りまして、TKB (48) です (図2)。どこかのグループのようなネーミングですが、ここでこういう講演じゃなければ、どこのグループですか、知っていますかと聞きますが、これは違ひまして、避難所・避難生活学会の医師や専門家がまとめられた提言、これがTKB (48) であります。NHKでも先般、放送されたところでもあります。トイレとか、非常に災害現場では大事ですし、東日本の際も苦労された部隊が多かったと思います。

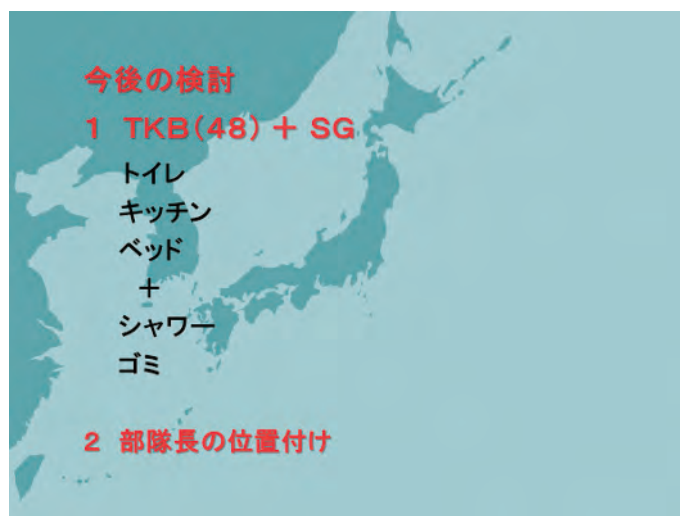


図2 今後の検討

簡単に説明しますと、災害時の環境整備についてです。Tはトイレ、Kはキッチン、食事、Bはベッド、睡眠環境です。これは避難所生活において、48時間以内の設置を目指しましょうという提言です。何で必要かは、実際、災害に行かれば皆さんもお分かりのことと思います。緊急消防援助隊にとっても、非常にこの辺り、弱点を克服する必要があるかと思っています。

トイレについては、実を言うと、阪神・淡路大震災の後も、防災の関係でかなり突っ込んで議論されているんですけども、なかなか表に出てこない問題です。実際、一般行政での災害時のトイレの確保についても、自治体によってかなり対応に温度差がある分野であります。

Bのベッドについては、拠点機能形成車などに100人分積載されていますが、寝具なんかも改良の余地があると思います。山登りをされる方は分かると思いますが、非常に軽くなって高性能なものがたくさん出てきています。どう備えるか、これは消防本部の予算であったり、考え方であったりだと思います。

提言にもありますが、トイレが不足するという衛生的な問題があります。コンテナトイレを宿営地に車両で運搬できるようにします。宿営地は、スポーツの競技場であったり、公園であったり、ある程度数が限られてきます。状況によっては水洗で流れないので、1回1回掃除という場面が、石巻市にもありました。運動公園のトイレが詰まったとき、自衛隊の協力もあり、何とか乗り越えられました。トイレについては自衛隊頼みもいいんですが、自衛隊は必ずいるとは限りません。

自然に返すということもあるかと思いますが、場所と環境によるとと思います。私が住んでいるところなんかは畑がありますので大丈夫ですけども、新潟市内においても中心部では非常に厳しいことになります。

次に、キッチンについてです。キッチンカーのような食料を積載してキッチンスペースを有する専用車両を、何とか消防に配備できないかということを考えます。長期派遣に耐えるには、食事というのは非常に大事だと思います。緊急消防援助隊の災害対応とか訓練を見ていると、よくカップ麺が出てきます。栄養面、さらに見た目にも厳しい食事を見るようなときもあります。災害現場だからしょうがないという考えもあるかもしれませんが、消防職員には料理の腕前がいい人がいっぱいいますので、ぜひキッチンカーを配備できればと思います。

緊急消防援助隊の無償使用車両として、国が検討していただいてもよいのではと個人的には思っていますが、無償車両の更新時期であったり、まだまだ必要な車両があるとは思いますが、今日は言いたい放題言わせていただいたところであります。

あと、SGについては、シャワーのSと、ごみのGでもいいんですけども、ガベージ

ということのGであります。シャワーについては、夏場であったり、汚水で汚れたときに必要で、現在も配備されていますが、シャワーの数が限られていますので、一挙にある程度洗い流せるような、そういった専用車両も検討に値するのではないかと思います。

あと、ごみについてです。被災していない隣接の市町村に処分をお願いするような、一つのルールづくりも方法ではないかと思います。

次に、受援側の課題についてです（図3）。1の状況の把握。これは表と裏なんですね。応援側と受援側。応援部隊の進出拠点、宿営場所の指定。これは候補地をいっぱい持ったほうがいいです。ここもいける、あそこもいけると。そこが被災する場合がありますし、冠水して使えないとか、建物がちょっと傷んでいて近づけないとか、そういったことも想定されますので、ぜひ受援計画をつくる際には、入念に検討していただきたいと思います。

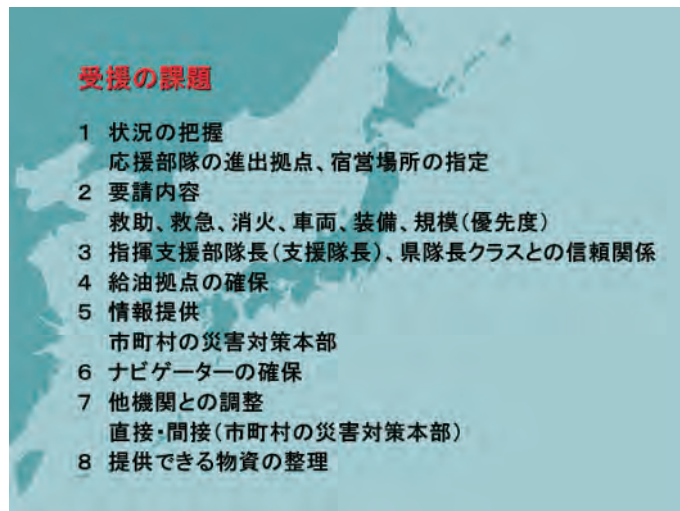


図3 受援の課題

2の要請内容についてです。具体的に、優先度の高い活動、規模、場所をしっかりと指定してください。情報提供が早ければ、応援側の活動開始、対応も早くなります。

3の信頼関係については、まさに応援側と厚い信頼関係を築いてください。勝負はどちらが手を先に出すかです。もし同時でありましたら、両手を出したほうが勝ちということでルール化するのでもいいかと思います。人間関係、信頼関係を築いてください。

4の給油拠点の確保についてです。大型車両が多数、給油をする、補給をする。できれば給油拠点を分散したり、工夫も必要になります。大型車両の給油には時間ももったないぐらいかかりますので、これも時間の有効活用としては非常に重要なことになります。

5の情報提供についてです。様々な情報については、災害対策本部が把握している場合

が多いので、緊急消防援助隊の指揮隊長クラスの代表者も、もし出席が可能であれば出席できるように、被災地消防が段取することも有効であると思います。ただ、外部（応援）の方という意味合いで、入れたがらない対策本部会議もあるのは事実であります。

6の案内人の確保です。緊急消防援助隊は、慣れない土地ですので、ナビとか、地図とかを持っていきます。ただ、地元の消防職員・団員の方が案内をしていただければ、まさに安全、迅速、効率的な活動につながります。消防団員の皆さんを確保しておいていただいただけで、安心感が大分違うということと地図では分かり難い道があることは事実です。大規模災害になればなるほど、普段通れる道が使えない。ナビは案内するけれども、その道は使えない。そういったことが実際にあって、案内人による案内でしっかり迂回して、効率的な活動が可能になったという事例も多くあると聞いております。

7の他機関との調整についてです。活動が重複するような他機関との調整は、被災地消防が災害対策本部を通じて積極的に働きかけることも、活動効率を上げるうえで重要です。必ず自衛隊のトップの方は、首長とか、市のトップの方と名刺交換をするようなところがあります。ぜひその辺の関係を生かして、特に自衛隊との調整はお願いをしたほうがいいのではないかと思います。

自衛隊のところで言い忘れたんですけれども、消防が持っていない、いろいろな資機材とか能力を持っています。道を切り開くとか、橋を架けるとか、そういったことを調整すると、消防隊が入っていきける。こういったことにもつながりますので、自衛隊の調整を軽く見ないで、一步下がってお願いして、使ってやろうぐらいな感じがいいかと思っておりますので、ぜひ上手く調整していただきたいと思っております。

8の提供できる物資の整理についてです。派遣が長期にわたると、車両の洗車なんかも必要になってまいります。ドブネズミのような消防車両、救急車両を見ることがあります。できれば車の管理上も、最低限洗車できるような、洗車できる環境を少し災害が落ち着いた段階で与えていただけると非常に応援側としてはありがたいと思っておりますので、ぜひ受援側に検討いただきたいと思っております。

あと、消耗品の部類なんかも、救急隊を含めて、多く持って出動しますが、たまたま多く消耗するような災害に当たる場合がありますので、この辺りも受援側から配慮していただくと大変ありがたいところであります。

今まで説明したまとめの部分で不足する部分は、皆さんが個々の経験や訓練で補ったり、想像力を持って解決していただければよいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、順番は逆になりますが、私が経験した東日本大震災について、その一部をお話いたします。

10年前の3月11日、午後2時46分頃に発生した大きな揺れが、東日本大震災の始まりで

した。皆さんは何をされているときでしたか。地震だ。その後、大きくゆっくりと長く揺れが続いたと記憶しています。

また、そのときは、とんでもない大震災につながると思われた方は少ないのではないかと思います。(JR仙台駅前の地震直後の写真を示しながら)旅行者や出張でおいでだった方もおられると思います。本当に仙台はきれいで、観光客も多いまちであります。

遠く離れた新潟市にいた私も、大きな地震が太平洋側で発生したことなど、実際に津波の映像をテレビで見て、これは本当に現実のことかと疑いたくなったことを覚えております。当時、危機管理部門におりました。1年間の出向中で、3月11日金曜日、議会の常任委員会が終わって部屋に戻った直後でありました。新潟市内に大きな被害が出ていないということで、各部局の初期の応援に関わる部署は、20大都市の応援協定や個別の協定などによる応援出動の準備を始めました。

消防では考えられないんですけども、地震発生から準備を始めて、実際に出動するまでに、無駄な時間を使っているんですね。速やかな出動というのは応援側、消防にとっても一般行政にとっても、本当に大事なことだと考えております。

私は新潟市の先遣隊長ということで、聞こえはいいんですけども、3人です。4人で行かせてほしいという話をしましたが、その後の対応が大変だということで、できるだけ職員を大勢残して行ってくれということで、結局、消防職員3人で仙台市に向かいました。

1人は横浜市消防局の方です。当時、横浜市と新潟市と人事交流をしておりまして、派遣中ではありましたが、一緒に行っていただきました。

もう1人は私と同じ新潟市消防局の職員であります。本当に新潟市の将来をしょって立つような、非常に優秀な職員だったんですけども、残念ながら、令和元年に病気で急死されました。実を言うと、今日は縁がありまして、その方の妹さんが消防大学校に勤務されていることが分かりました。これは縁だなとつくづく思いました。

話を戻します。新潟市の先遣隊は、その日の午後6時頃に市役所駐車場からひっそりと、危機管理監など数名が見送る中、パジェロで一路仙台市に出発しました。出発式のセレモニーもあるという話だったんですが、申し訳なかったんですが、キャンセルして、一刻でも早く行かせてもらうということで、新潟中央インターチェンジから磐越自動車道、郡山ジャンクション経由で東北自動車道を通って仙台に向かいました。

事前に新潟県警、ネクスコ東日本に、車が通れることを確認いたしました。新潟県内最後のインターチェンジである津川インターチェンジで、全ての一般車両は高速道から降ろされました。

県境を過ぎまして、1回だけ休憩を取りました。磐梯山サービスエリアでトイレ休憩。とにかく仙台へ先を急げと。会津若松市を過ぎたあたりから、周りの風景だけでなく、

路面も白く覆われてきました。それでも、M自動車（車の写真を示しながら）を褒めるわけじゃないですけども、かなりスピードを出しても通行には支障がありませんでした。ネクスコもあの時間の間に、高速道路の応急処置がかなりしてありました。土のうやら、かなり敷いてありまして、非常にネクスコの応急復旧能力の高さというか、応急復旧の技術の高さには驚かされました。経験として、よほど崖が崩れて通行止めにならなければ、緊急消防援助隊とかは高速道路を非常に有効に使えるというのが分かりました。

仙台市に入りました。信号はほとんど消えていました。駐車車両が端っこに整然と、これは日本人のすごいところですよ。整然と道路脇に駐車されていて、まち全体が静かで、暗いんですけども、屋外の暗い中に不安そうな人々がみんな立っているんです。大勢の方が、夜の12時ぐらいにも関わらず、大勢の方が立っていました。

何とか仙台市役所にたどり着いて、市役所近くの青葉区役所に設置された仙台市災害対策本部に、12日の午前1時前には到着することができました。

対策本部の写真があります。中央の緑色のビブスを着た方の後ろに、ちょっと赤いビブスが見えますけれども、これが齋藤部長であります。1人だけ目立って、元気いっぱい働いておられたのを覚えております。それで発言も多くて、要望も多いんですね。「小林さん、何とかしてくれよ。」とか、遠慮なしに言われる方だなと思いましたけれども、何でも言っていたので、信頼関係はばっちりだったと私は思っています。当時の奥山仙台市長や副市長から、「こんなに早く来るとは思わなかった。」と驚かれました。

この後、応援側の私たちは、15日までの4日間、会議室を提供していただくまでは、廊下で過ごしました。ただ、新聞紙と段ボールの暖房効果だけは立証できたと思います。新聞紙とか段ボールって暖かいなと思ひまして、あとは、休むときは机の下に頭を入れて、頭の近くに携帯電話を2台置いて、いつでも対応できるようにして休んでいたような思い出があります。

到着直後の廊下は非常灯だけで、非常に暗かったです。自家発による電灯しか点いていません。あと、大勢の新聞記者が駆けつけていましたが、新聞記者は引くのも早いんですね。日曜日には新聞記者は1人もいなくなりました。発災から避難者が増えて、14万人を超えたという数字を私はかすかな記憶で覚えています。仙台市当局は非常に準備されていたので、何とか耐え忍んでおられたのが印象的でありました。

日本各地、太平洋側は火災もありました。救助もありました。救急搬送もありました。捜索活動もありました。

これが仙台市役所の本部で食べられていた12日の早朝の、多分夕食と朝ご飯を兼ねたものかと思ひます（写真1）。私たちは何を食べたかといいますと、持参したポテトチップスと柿の種、ペットボトルのお茶だったと記憶しております。



写真1 食糧不足

避難所。これについても、これは大分落ち着いた後の避難所です。皆さんが緊急消防援助隊で活動している裏側には、こういう一般行政がやっている部分があるんだということを、一つ理解しておくことも、皆さんの活動にとってはプラスになるのではないのでしょうか。

続きまして、これは避難所支援職員であります。新潟市では、物も送りましたが、避難所支援職員を早めに送ろうと。当初、50人規模ということだったんですが、何とか100人出しましょうということで、100人を出しました。あと、横浜市とか神戸市も、50人、50人出されたと思います。

何で人の派遣を急いだかといいますと、仙台市の職員の方は、自分の自宅を見に行っていないんです。自分の自宅がどうなっているか分からない不安感、自分の家族がどうなっているか分からない不安がある。通信規制が入っていますから、携帯電話なんかはつながりません。そういうお話を聞きましたので、とにかく早く入れ替わる人を出そうということで、14日の月曜午後には新潟市からバスで第1陣100人が仙台入りしました。これは、過去に中越地震、中越沖地震を経験した、避難所支援に精通した職員を送り込みました。そんなことで、非常に仙台市当局には喜んでいただいたと考えております。

次に、これは黙読だけさっとしてもらって、これなんですよ（図4）。一般行政の方も一生懸命やっているんですね。

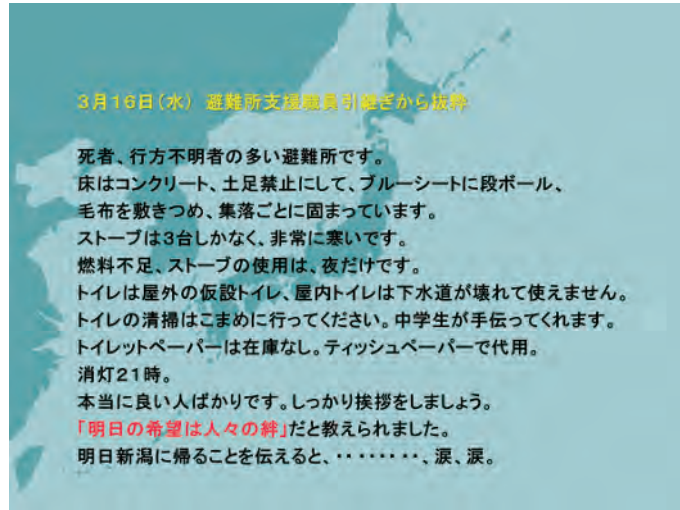


図4 避難所支援職員引継ぎから

避難所の食料として、パックご飯は非常に有効でした。あと、アレルギー食。これも目のつけどころとしてなんですけれども、仙台市は不足しましたので、すぐに新潟市の保育園で、分散備蓄しているものを集めて、避難所に行く職員に持たせました。アレルギーは重くなると、命に関わるので、もしそういう防災と関わるがありましたら、是非確認をしていただければと思います。

仙台市内は携帯電話が使えませんので、公衆電話で行列していました。

これは県外に脱出しようとする高速バスに並ぶ列の写真です。山形県側に何とか出て、空港とか車を使って自分の行きたいところへ、帰るんでしょうか、それとも避難されるんでしょうか、そういう方が非常に目立ちました。

ガソリンスタンド。電源を失っていますので、簡単に給油できませんので、長蛇の列です。ただ、私が感動したのは、消防車が入ると、どうぞ先に給油して下さいという形になるんです。これには、日本人は、すばらしいと思いました。

コンビニエンスストア。これも、ガラスを割って略奪とか、そういうことはないんです。皆さんが並んで。電源はありません。手計算、時間がかかります。2人ずつ入れて。それでも並んで買う。これが日本人のすばらしさだと思います。

次はスーパーマーケットですね。1階だけでも開けようと。食料が不足している。仙台市内は当初、食料品の値段は上がっていました。倍なんてもんじゃないです。それでも正規のところは正規の値段でということで、頑張っておりました。

3月13日の日曜日、これは朝の風景であります（写真2）。仙台市当局のご配慮で、一緒に状況を確認させていただきました。本当に言葉になりませんでした。



写真2 平成23年3月13日（日）

雪も積もります。雪が積もると、活動ができないような一般車両というか、応援隊も、一般行政では雪による活動停止がありました。

あと、トイレ（写真3）。これは仙台市がすごいなと思ったのは、トイレを沢山備蓄されていました。



写真3 簡易トイレ

避難所では、ルールを書いたほうがいいです（写真4）。時間の経過とともに仮設トイレがいっぱいになったので、新潟市は何をしたかといいますと、バキュームカーを送りま

した。電話ボックス型のトイレはすぐいっぱいになりますので、バキュームカー8台をすぐ送りました。本当に夜通し走って、来ました。

14日の午前6時には、仙台市役所前に到着しました。民間の方ですので、バキュームカーを市役所前に止めていいかとか、自衛隊の車両の横でいいのかとか、心配されましたが、どうぞ止めてくださいということで私は勝手に判断しまして、止めさせていただきました。避難所のトイレを朝早くから夜7時過ぎまで自主的にできる限りのことをやっていただきました。民間の方の心意気というか、そういったものを大いに感じたところでもあります。

時間もありませんので、これは私の写真です。一生懸命、民間の人に、頑張ろうということを行っているところです。次は、消防隊の頑張っているという姿です。雪の日も頑張っている、晴れの日も頑張っている。本当に「消防、頑張れ！」という声を、一般行政として仙台市に行っている間も、いろいろな方からお伺いしたところでもあります。晴れた暑い日、暗い雨の日、風の強い日、雪の寒い日もあります。

私の結論として、応援も受援も、職員が消防活動に集中できる環境をつくるのが最大の課題で、課題を解決することが、国民を守るという消防の任務を果たすことにつながると思います。どうか、ここにおられる幹部の皆さん、消防が活動しやすい環境の整備に向けて、それぞれの立場でご尽力をいただきたいと思います。

時間は、ちょうどいいぐらいかと思いますので、本日、この機会を与えていただきました寺田学校長はじめ、消防大学校ご当局に感謝申し上げますとともに、ご聴講をいただきました皆様のますますのご活躍、ご健勝をご祈念し、私からの話を終わらせていただきます。ご清聴、大変ありがとうございました。(拍手)

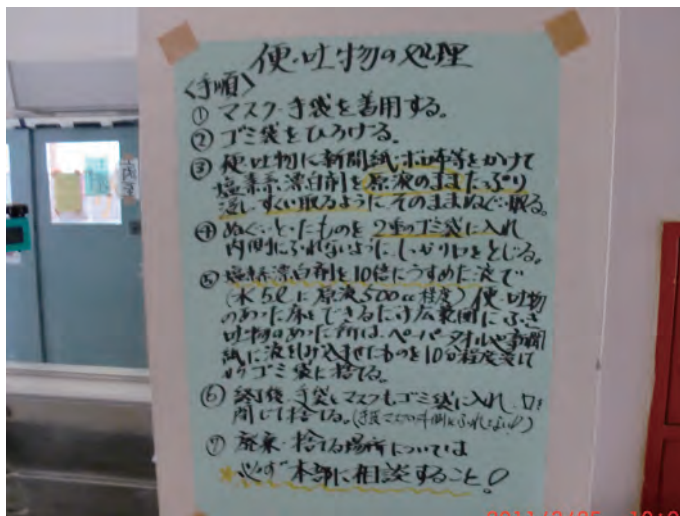


写真4 ルール

【司会】 小林様、素晴らしいご講演、ありがとうございました。小林様にもう一度、盛大な拍手をお願いします。(拍手)